

平成20年度一般会計当初予算額のポイント

～ チャレンジ！おおいた国体・おおいた大会の成功と
魅力ある大分県づくりに挑戦する気くばり予算～

20年度当初予算額 590,205百万円

(うち事業費) + 778百万円

(うち人件費) 2,146百万円

「おおいた挑戦枠」80事業 11.9億円

おおいた国体・おおいた大会開催経費 67.2億円

暮らしやすい、住んでみたい、訪ねてみたい
「安心・活力・発展」の大分県づくり



「暮らしやすい大分県づくり」

- ・ 社会福祉センターを改築し相談機能強化(こども家庭相談支援センター(仮称)等を創設)
- ・ 医師、看護師、助産師の確保や肝炎治療費助成、がん等の医療体制を整備
- ・ 誰もが利用しやすいバス環境整備(ノンステップバスの導入、バス停のマウンドアップ)
- ・ 被災住宅の再建支援拡充(1戸から)と戸建て住宅の耐震改修に助成開始
- ・ 宅配サービス事業など小規模集落・里の暮らしを支援
- ・ CO₂削減のための森林整備と鳥獣被害防止対策を強化
- ・ 30人学級拡大(中学1年)と宇佐養護中津分校の新設
- ・ 学校、家庭、地域が連携した「協育」ネットワークの構築を全県で展開
- ・ 高齢者の反射材装着運動と運転免許証ICカード化

「住んでみたい大分県づくり」

- ・ 農業の企業誘致と異業種参入を推進
- ・ 流通の変化に対応した農産物契約販売体制を構築
- ・ 燃料、飼料、餌料の高騰対策(園芸用ハウスの省エネ化、ブリ養殖対策の充実)
- ・ 地域資源を活かす地場企業を支援(50億円の基金を創設)
- ・ 自動車関連産業新規参入・取引拡大を目指す地場企業を支援

「訪ねてみたい大分県づくり」

- ・ 福岡都市圏向け大分ブランドの戦略的広報を実施
- ・ 「竹ものがたり」～竹を活用したおもてなしなど新たな観光ブランドを確立
- ・ くじゅう高原に新たなツーリズムを展開～トマト街道～
- ・ JR豊肥線、久大線の高架を完成
- ・ チャーター便誘致(台湾)とソウル線定期便の運航継続

政策県庁を目指し部局連携を強化（縦割から横割へ）

部局が垣根を越え連携し取り組むテーマ(10分野)に116事業129億円を計上

子ども・子育て応援社会の形成

地球温暖化防止対策の推進

防災力向上対策の推進

女性の様々なチャレンジに対するサポート体制の構築

産業間連携と地域資源の活用によるニュービジネスの創造

公共交通機関・施設のユニバーサルデザイン化の推進

おもてなしの心のこもったおおいた国体・おおいた大会の実現

学校と地域との連携

団塊世代の移住等の推進

「竹」の適正管理と資源的活用の促進

一般財源総額は下げ止まるも、三位一体改革を乗り越える 持続可能な財政基盤の構築は道半ば



- ・ 人件費の抑制(21億円)と選択と集中による事業費の確保(+7億円)
- ・ 主要一般財源が+15億円
地方交付税(15億円)、県税(10億円)、臨時財政対策債(+40億円)
- ・ 財政調整用基金繰入(142億円)、市町村振興資金の一部を企業会計に譲渡(40億円)
- ・ 県債発行額は増加するも8年連続でプライマリーバランスの黒字を堅持